くにみ

【才85号】
昭和39年10月15日発行
非売品
発行所　国見町公民館
発行人　佐藤善次郎
編集人　鈴木美一
印刷所　宇佐美印刷所

◎祝祭日には国旗を立てましょう

小田藤

モデル給食室完成

完全給食はじまる

中秋十月九日、藤田小では待望久しかった給食室完成を記念して披露感謝の会が開かれた。午前十一時、町当局をはじめ町内有志、PTA会員など約四〇〇名参列、会場である体育館には万国旗がはためき、正面には金文字あざやかな「給食室完成感謝の会」とバック幕に映え、壇上の白菊が清楚な調和美を見せる。朝内教頭の朗々たる司会で式は進行する。

一、開会の辞　佐藤副会長
二、会長挨拶　曳地会長
三、工事経過報告　佐久間助役
四、町長挨拶
五、感謝状贈呈
六、祝辞
七、祝電披露
八、学校長謝辞
九、閉会の辞　本田副会長

終始なごやかなふんいきの中に終り、続いて感謝試食会に移る。これは各教室にわかれ、それぞれ当番児童のサービスで、おいしいパンとミルクとおかず、完全六五〇カロリーの昼食に舌鼓をうつ。試食後、給食室の見学をする。実に明るくすばらしい建物、デラックスな設備、近代的な給食室とはこれかと感心する。喜びが胸にあふれ、今更のように教育優先、教育尊重の国見町であることを再認識し、関係当局や学校、PTA、一般町民各位の協力に深い感謝と敬意を捧げずにはいられない。

戦前から始められた学校給食もここに至って完全な姿になった。当町の他の小中学校も早晩実施すべき段階にきている。町民一人一人のあたまの中に、否はらわたの中に、完全給食というものの姿をえがくため、これらの企画運営に当っておられる田村校長先生のお話をうけたまわることにしよう。

× × ×

◎…記者
※…校長先生のお話

◎完全給食のねらいはどんなことでしよう

※そうですね先づ才一に、子どもの心身の健全な発達をはかることです。それは栄養標準量六五〇カロリー、蛋白質二五瓦、脂肪一一瓦、カルシウム、ビタミン等、ほどよくバランスのとれた栄養をとらせ、のび盛りの子ども達の体位向上健康増進がはかられることです。毎日おいしいこんだてですから、子ども達はうれしくなります。それに同じ昼食をいただくことが、今まで弁当をたべる際の劣等感を吹き飛ばしてくれたのですから、ほんとにたのしい食事の時間になり、気持も明朗健康になるというものです。だから今まで欠席しがちの、早帰りしがちの子どもも、殆んど欠席がなくなりました。

才二のねらいは、食事作法が身につくことです。才三は、いい親愛感が育成されることです。才四のねらいは、食生活の改善に役立つことです。毎月の栄養こんだては、子どもにもよく指導し、家庭にも一覧表を配布しますので、完全給食を実施している学校では自然に、これらの良い習慣や栄養や保健衛生の思想が深められ、金銭に替え難い生命の糧を体得することができるようになります。

× × ×

◎モデル校としてどんな運営をする考えですか

※モデルと申しましても学校としては、学校給食法に基ず く文部省や教委保健所の指導を受けて実施していく考えですが、給食実施の責任は学校にありますから、十分に保健衛生管理に注意し、事故の絶無を期するとともに、安くておいしく栄養のある献立を考え、子どもの健康増進をはかっていきたいと思います。そのためには、学校の協力団体であるPTAの奉仕と、関係機関、業者の温かい理解と協力がほしいと思います。幸い当地区においてはPTAが熱心に協力して下さっており、業者も良心的に、新鮮な品を格安に納入して戴いておりますので、感謝しています。

× × ×

◎給食費や給食費の会計はどうなっているのでしようか

※学校の完全給食は週五日制で土曜日は、機械の手入、洗濯などにあてています。お母さん方からは土曜日も給食をしてほしいという希望もありましたが、全県下で六日制の学校は福大付属小のみで、給燃料、光熱費、人件費などは学校予算で賄われますが、当番児童のエプロンや手ふきの補充消毒、洗剤等の雑費は、給食室で必要なこんだて材料は、商工会に一括注文し商工会では、各業者納入当番の店に納品を連絡します。そして今月納入の品代金は、商工会で一括集計して、学校に請求され、翌月十日に農協口座より支払われるしくみになっています。尚給食室に必要な学校予算で賄われますが、当番児童のエプロンや手ふきの補充消毒、洗剤等の雑費は、給食費のことでもあり、必ず完納されることを信じて疑いません。

給食費の集金は、PTAの各方部毎に集金グループ（班）があり、毎月二五日から三〇日まで、それぞれのグループ集金係（子会計）が集金し方部の親会計に届けます。農協は親会計許まで集金に行き、学校給食の預金口座に入金するしくみになっています。

このような集金方法は、先進地区でも実施している方法で、殆んど滞納されて困るという例はないそうです。当校の場合も、可愛い子どもの給食費のことでもあり、必ず完納されることを信じて疑いません。

設備の面では、先進各校と比較して最高の設備といえましょう。調理場のステンレストップのかまど、音の静かな東浜バーナーは最高級でしょう。皮むき機や野菜裁断機は、調理能率を高めています。食器類の洗滌は一番手間のかかる仕事でしたが、すばらしい洗滌機を整備することができました。温水ボイラーの湯をふだんに使っての食器洗滌は、見ていても気持がよい。洗われた食器は、直ちに電気熱風消毒庫に納められる。それらの近代オートメ化の機械が完備したのですから、すばらしいわけです。

毎日お昼時間になると、各学級の給食当番児童が、活躍します。一人一人が清潔なエプロン、マスク、三角布で髪を包んで配膳します。一人用の角盆や、お手ふきまで整えてあるのも特色の一つです。

× × ×

◎立派にできた施設設備の経費はどれほどですか

※建物は、鉄骨、ブロック外部モルタル仕上げで、壁土は用いておりません。新しい建築材料で、窓もスチールサッシ大平板やVプリント板等を使用し、天井が高く明るく、どこの給食室よりも気持ちよい建物です。配膳棚のある廊下も広いし、給食婦の更衣室も感じがよく、また専用手洗所のある給食室は、衛生管理上大切なポイントです。パン棚があり、荷受室と調理室にまたがる荒流し場があり、湯気抜きの配慮もよくできているのが特色です。

施設設備の予想以上の充実については、よい設計をして下さった加藤五郎さん、誠意をこめて施工した請負の国見工業所の方々、築炉工事やバーナー取付、機械類の整備に大サービスをして下さった東浜工業所の今村さん、モロワ商会の佐藤さんに、厚く感謝申上げる次第です。

× × ×

◎最後に国見町の各校が完全給食にふみ切ることについて一言

※あなたが望んでおられるように、私も大賛成です。ぜひ一日も早く各校とも完全給食を実現してほしいものだと念じています。完全給食が絶対よいことはだれもわかっていることでしようから、学校、PTAの意欲的な実現運動は必ず成功するものと信じています。

何分にも最初に金のかかることですから、地区ぐるみの理解と協力を得ることが先決となりましようが、創意工夫による資金造りと、綿密な推進方法のあるところ道は開けると思います。

伊達町、梁川町に続いて、国見町各校の完全給食実現の日を待望してやみません。

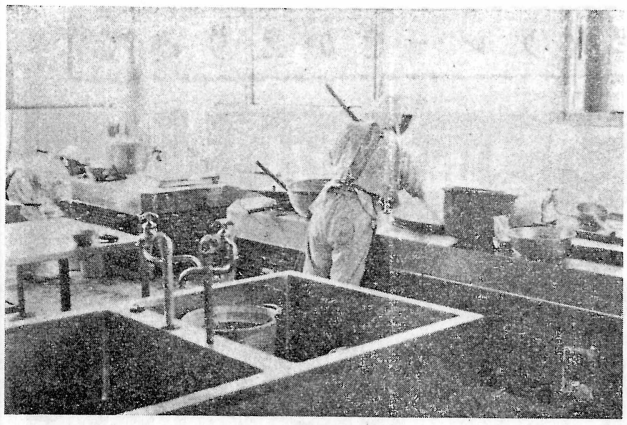
（　）（　）

記者より

「ろんよりしようこ」

「百聞は一見に如かず」

一度ごらんになることをおすすめします。



写真（上）完成した調理室
（下）給食に忙しい生徒さん

北欧の変つた習慣（2）

正博　八島

年始・中元の無い国

私たちがふつう行なっていることでデンマークにない習慣の一つに年始、中元の贈りものがある。日本で正月の贈りものの年始とか、盆に行われるお盆礼又はお中元ということはデンマークにおいては全然ない。又日本で始めて他家を訪れ、又は招待されていくとき、旅行から帰ったときには必ずみやげものを持って行く。私たちはさしてこんな習慣は不思議にも感じないことであるが、しかしよく考えると、やはりどこかに矛盾を感ずる。デンマークにはこうした習慣が全然ないのかというとそうではない。クリスマスともなれば、家族同志、親類間等又は友人に対し、相当豪勢なものを贈るし、又誕生日のお祝いも、満一才の誕生日から死ぬまで贈りものをするのである。又成人式、結婚式、金婚式、銀婚式には誕生日より更に高価な物が贈られているようである。だから大人でも子どもでも、年一回のクリスマスと誕生日は、みんな首を長くして待っているのである。

私たちが特に感じたのは、日本では役所その他職場において、種々の上役に対する中元、年始の贈りものをすることであるが、デンマークにはこうしたことが全然ないことである。

又おもしろいのは、何かを持って行くときの挨拶で「これは私がつくった最高のものですが」といってすすめるが、あちらの主婦たちは「これは私がつくった最高の食物ですからどうぞ」とか「これはうまいものですよ」といって差し出す。こんな点日本と大きく違う習慣である。私たちはいつも気持ちよくご馳走になってきたのである。

どちらが良いとか悪いということでなく、デンマークはこんな習慣なのであるということを述べただけである。日本のようにへんにお世辞をつかったり、へんに卑屈になることなく、自分に絶対の自信みたいなものを持っているように思われる。食事を出すときでも日本ではきまって「おそまつでした」とか「まずいものですが」といってすすめるが、あちらの主婦たちは「これは私がつくった最高の食物ですからどうぞ」とか「これはうまいものですよ」といって差し出す。こんな点日本と大きく違う習慣である。私たちはいつも気持ちよくご馳走になってきたのである。

どちらが良いとか悪いということでなく、デンマークはこんな習慣なのであるということを述べただけである。

※施設費二二七万五千円、これは建物四二坪と、給食室までの道路側溝、給食室よりの排水溝等含めての請負契約額です。設備費は一五〇万円の契約ですので、総額三七七万五千円になります。施設設備の補助五七万余円、地元寄附七〇万円採納願っております。特別な経費をかけて戴いたのは、国見教育振興の為に当局が大きな期待をかけられておることで、これを契機に御期徒に添うように努力したいものだと考えております。日頃感銘を深くしたことはPTAの熱心な完全給食実現への運動でありました。

地元負担寄附募集の運動を展開し、七〇万円の寄附採納を願い、また建築促進協力の為一週間にわたる奉仕作業の推進など、子ども達の幸福をただ一途に願いながら、汗を流して下さった御苦労に対し衷心から感謝しています。

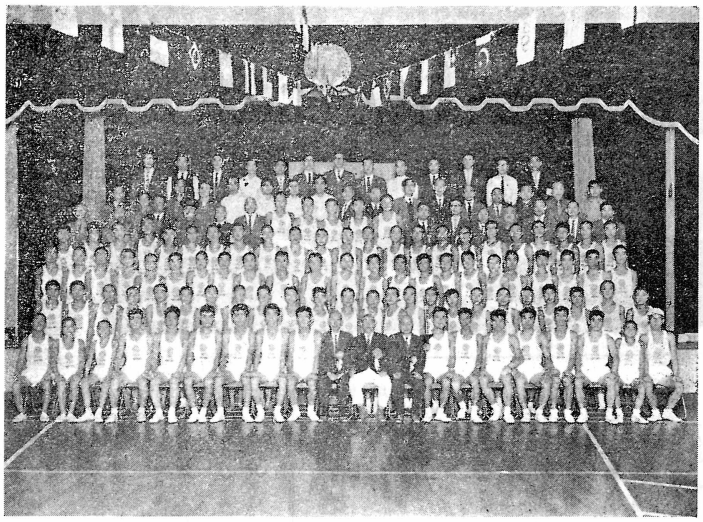
児童一人当一〇円宛を毎月徴集することによって運営されることになっています。

× × ×

◎近代的な建物や設備についてどんな特色があるでしようか

◎家中村中みんなでスポーツを実行しましょう

聖火リレーをかえりみて



オリンピック東京大会聖火リレー記念

夢中で誓いのことば

才一区　渋谷　肇

降りしきる秋雨の中、打ち上げ花火を合図に、自衛隊の奏でる「若い力」が鳴りわたる。待ちかまえていた歓迎の人達からどよめきが起り、色とりどりの雨傘が左右にゆれ動く中から、宮城県の最終ランナー渡辺君の手に掲げられた聖火が入って来た。オレンヂ色の太陽の火は、今正にわれらの目の前に来たのだ。午後二時十一分、いささかの狂いもない。続いて副走者、随走者が入って来た。中に女性も幾人かまじっている。みんな雨にぬれてランニングシャツは肌にべったりついてるが、雨なんかへいっちゃら、元気一ぱいの顔でわれわれの前に整列した。引継ぎ式が始まったのだ。笠折教育長からトーチを戴き、「責任をもってリレーします」の誓いのことばも夢の中で述べる。どっちを向いてもカメラの集中攻撃を受けているようだ。威勢よくふき出すトーチの光と煙りに追い立てられるような気持ちではしり出す。一きわ強く降り出した雨の中を、二台の白バイの先導で走る。両側の人垣と自動車がやっとときれたと思ったらもう駐在所前だ　練習を始めたときはあれほど長く感じたこのコースが、今日はなんと短いことか。

才二区走者たちが長い煙の尾を引いて走り去る姿を見送って、これで自分の任務は終ったのかとはじめてほっとした。果樹の消毒で忙しい時に新聞社からのインタビューに来られて困ったこともあり、テレビに出てほしいと迎えに来られ野良着のまゝ、ひげ面のままユニホームを持って出かけたこともある。思えば楽しい思い出ばかりである。これからますます身体をきたえ、胸を大空に向け、世の中のことを学んでより大きく成長し、わが郷土の発展につくしご指導くだされた先生や役員の方がたにご恩返しをしたい。と思う。

一秒の狂いもなく

佐藤　邦治

世紀の祭典東京オリンピックの聖火が、ギリシヤのオリンピヤで採火され、アジア諸国のリレーが始まったその頃だった。八月二十四日午後三時わが国見町では聖火リレー走者隊の結団式が行われた。

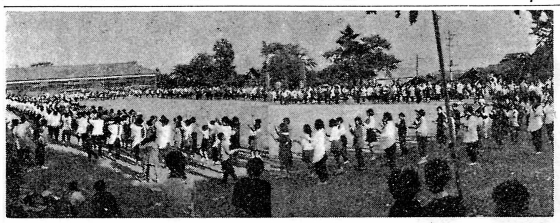
その日はちょうどものすごい雨降りであり、秋蚕のまっさかりと果物の出荷など悪条件がかさなったせいもあって、定刻になって随走者の中学生が整列しているのに、かんじんの正副走者がそろわない、結局幾人かの欠席者と遅刻者をそのまま式を終えたのである。早くいえばぼくたちは、そのころでさえまだ聖火リレーというものについての認識がたりなかったので、それほどのよろこびも責任も感じなかったのである。その後町の皆さま方のご指導で任務の重大なことを知り、県内七十一人の正走者の一人に選ばれたことの光栄を知って、それからというもの毎晩練習をかさねた。ぼくら石母田グループは大木戸駐在所から母校県北中学校まで二キロを走る。定められた時間に一秒の狂いなく走るために、われら三人はなんべんも走ってみた。

九月二十八日午後二時十八分、私たちの待ちに待った聖火はいよいよやって来た。結団式の日に劣らぬ雨の中を、渋谷君を先頭に、二十三人の一隊が勇ましく走って来る。両側に並んだ歓迎者の目の丸が一だんと大きくゆれる。係りの人の号令を待つ。

全体ー止れ
右向けー左
小旗引継ぎ
予備トーチ引継ぎ
点火ッ

練習していたとおり右手に持ったトーチを思いきり斜上にのばして渋谷君のトーチと向い合せる。二、三秒たつとたちまちこちらのトーチからもオレンジ色の火がふき出したここで更に一段と右手を上げた。

右向けー右、かけ足進めの号令で走り出す。あとはもう夢中で走った。気がついてみるともう県北中学校の前についていた。才三走者が出発したあとから、何十台とつづく自動車の行列を見てびっくりした。ここ二か月にわたってあれほど気にしていたリレーが無事終って安心すると共にこの感激を一生忘れることなく立派な社会人になりたいと思う心で一ぱいであった。



夢のような幸運

佐野　守

世紀の祭典とさわがれるオリンピックに参加するなどということは夢にも考えたことがなかった。ところが天から降ってわいたように、僕たちはその参加のよろこびを味わうことができたのだ。県内七十一名の正走者の一人に名前をつらね、オリンピックのマークを胸に、オレンジ色に輝く聖火を高く掲げて走る。まったく夢のような幸運だ。選ばれた限りは時間を守り、ホームを正しく、ベストをつくして一生けんめい走るぞと固く神仏に誓ってその日を待った。

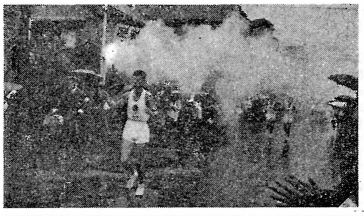
九月二十八日、あいにく朝からの雨で、かなりの寒さである。こんな時、はだかになって雨にぬれたらたちまちかぜをひくぞとみんなから心配された。しかしいよいよ上衣をぬぎ、整列すると寒さなど少しも感じない。僕たちの受持ちは県北中から藤田車庫までだ。母校の正門前から延々とつづく中学生と藤田、森江野、大枝の小学生たちの日の丸の間を、思いきり胸を張り腕をのばして走った。藤田町に入ったら爆発したような拍手と喚声に迎えられ、無事次の走者に引渡した。雨がますますはげしく降っていることに気付いた。

二度とない聖火リレーに参加できたこの名誉をたいせつに、これからも大いに勉強し町のため、青年団のために努力したい。

町の歓迎ぶりにびっくり

高橋　勝彦

とうとう心配された天気になってしまった。午前から降りつづく冷雨はいっこう止むことなく、「こんなときは車で運べばいいのに…」など、思いもしなかったことさえ頭に浮んだりするような悪コンディションである。何回もの打合せ会で、よほどの悪条件でない限りリレーは実行するといわれていた。いつもの練習時と同じく時間かつきりに行こうと思ったが、やはり気が焦って少し早めに家を出かけた。町の中に入ってびっくりした。大きな聖火歓迎の横断幕が張られ、商店の軒先には紅白のだんら幕、そして両側にはぎっしりと日の丸を持った人が列を作っている。



このにぎわしさを見ると、自分が聖火を持って走る責任の重大さを感じなんだかおそろしいような気さえした。副走者、随走者の諸君も同じく感じたのだろう、雨の中でふるえるからだをおさえつけるような気持で待っていた。

やがて花火があがった。藤田小学校前まで来たという合図だ。いよいよ僕がけて走るのだ。思わず体がひきしまる。見えてきた、雨の中を。聖火を高だかと掲げた佐野君の姿だ。観衆がざわめく中でいよいよ点火だ。勢よくトーチが燃え出した。まっ白い煙と共にオレンジ色の炎がふき出す。思わず右手を高くあげる。いよいよスタート。いつもと同じ調子でゆっくり走れと自分にいいきかせながら、一歩一歩数えるようにかけ出した。雨は小止みなく降っているのだが少しも苦にならない。とうとう千二百メートル走路の終りだ。聖火を桑折町走者に渡したとき、体の中にあった「こり」のようなものがとれ、ほっとした気持ちになった。今考えて見ると、正走者に指名されてからというもの、毎日期待と不安の連続だった。一さいを終ったいま僕ら一生の間に二度と来ないだろうと思われるオリンピックの聖火リレーのメンバーという大役を自分がつとめたということに、胸が熱くなるのを覚えるのである。

町民体育大会の記（一）

（前がき）……多少自画自讃の評があるかも知れないが、いろいろの事情で参加できなかった人のためにお知らせする。オリンピックニュースで湧き立っているとき鎮静剤のつもりでお読みいただければ結構である。（鈴木記）

◎耳の痛いお天気談義

町民体育大会ほどお天気を心配するものはない。降ればもちろん町民日頃の練習も、丹精こめた役員の準備も台なしになるし、晴れれば晴れたで稲刈りしたくなる。特にことしは穂発芽の声が出たり、晩々秋蚕がまだまだ残っているという、まことに耳の痛い話ばかり。しかし、これが社会教育のたどる姿ではあるまいか、どちらを向いても悲観条件だらけであるが、それでこそ社会教育の必要さもありおもしろみもあるというものであろうとハッスルする。

宿命の日？十月四日は来た午前六時、一面の朝もやをついて二発の花火をあげる。

◎偉大な歯車

七時半、係員はぞくぞくとつめかける。打合せ会らしい打合せは一度もしない、ただ一片の委嘱状だけで、時計の歯車のように正確に働いてくれる。ほんとうにありがたいことだ。

◎一寸の虫にも五分の魂

定刻より十五分おくれて開会。入場行進、国旗掲揚（国歌吹奏）大会長挨拶、ここで聖火到着、先日のオリンピック聖火リレー走者たちによって、役場から運ばれてきた聖火は、みんなの拍手に迎えられてトラックを一周、パックスタンド？に設けられた聖火台に点火された。ほんものの聖火やオリンピック開会式にくらべたら、まことに児戯にひとしいものではあるけれども、けつこう気分を出してくれる。このころにはやもすっかりはれ、久しぶりの秋晴れとなり、平和の鳩は放たれた。発足才二回以来行なってきたこの放鳩の行事も、すっかり板につき、開会式にはなくてならぬ景物となった。鳩の会会員諸氏に心から感謝したい。

◎ムードを盛りあげる役員競技

演技はラジオ体操で幕をあける。日ごろラジオ体操（近頃はテレビ体操）は耳からきくものと思っているが、この日ばかりはみんなでしんけんに全身を動かす。次は全役員を五つにわけての輪まわしリレー、名づけて五輪レース、まことに景気がよく、大会ムードを盛りあげるに効果的だ。

◎単純で親しみある一般種目

オリンピック創始者のことばを借りるまでもなく、スポーツは参加することがたいせつだとすれば、日頃ほとんどスポーツに関心をもたない一般大衆に対し、きょう一日でもよいからこれに興味をもたせ、自分の足で走り、自分の手で投げ、そして自分の体で踊らせるということは、まことに意義のあることである。一般女子の一〇〇メートル、スブーンレース、男子の二〇〇メートル、輪廻わし、男女のおしどりレース、これは毎年やっている種目だが、やはり人気がおちない。この単純で原始的なところに魅力を感じ、郷愁みたいなものをもっているのだろう。

お礼

このたび行われましたオリンピック聖火リレーの歓迎送並びに才十一回町民体育大会の実施にあたりましては、関係機関並びに一般町民の皆さまには、農繁期公私ご多忙中にもかかわらず何かとご協力いただきまして、まことにありがとうございます。おかげさまをもちまして、いずれもりっぱな成果を挙げ、関係者の期待に添うことができましたことを、心から感謝申上げます。

尚只今東京において展開されておりますオリンピックの精神にのっとり、アマチュアスポーツの振興をとおして郷土並に祖国の発展に尽力する所存でありますので、今後共一層のご協力を賜わるようお願いいたします。

国見町長　赤井畑直衛

編集後記にかえて

（生活にオリンピック精神を）

勝つことよりも参加することに意義があるというわけがよくわかりました。□□□

◎スポーツ少年団を組織してながくスポーツをつづけましょう（少年たち）

◎レクリエーションクラブで長くスポーツをつづけましょう（としよりたち）

◎大いに歌って踊って明るく暮しましょう（婦人会）

◎一日三回以上ラジオ体操を実行しましょう（職場人）

◎部落の広場を整備してバレーボールをみんなにすすめましょう（部落民）

◎やっぱりスポーツはわれらのもの、大いにやろう（青年たち）